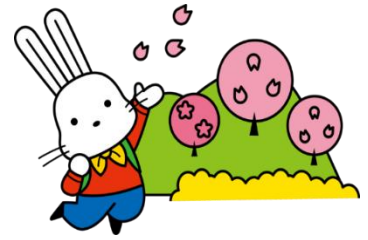


福島ピーチラウンド報告書

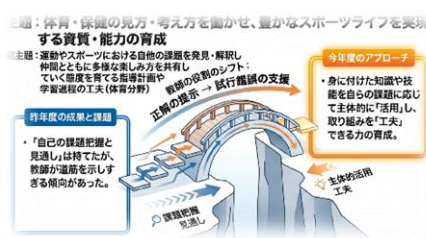


北海道・東北 体育・保健体育ネットワーク研究会「福島ピーチラウンド」を、8月15日（土）に対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、以下の内容で研修を行いました。

- 1 開会行事
- 2 実践報告
研究主題「体育・保健の見方・考え方を働かせ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成」
発表① 西会津町立西会津中学校 田崎 和哉先生
発表② 伊達市立霊山中学校 関根 智美先生
- 3 ワーク 日本女子体育大学 高橋 修一 教授「体育・保健体育の授業の充実に向けて」
- 4 総括・まとめ 桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授
- 5 閉会行事



【実践発表 西会津町立西会津中学校 田崎 和哉先生、伊達市立霊山中学校 関根 智美先生】



「体育・保健の見方・考え方を働かせ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成」の研究主題のもと、運動やスポーツにおける自他の課題を発見・解釈し、仲間とともに多様な楽しみ方を共有していく態度を育てる指導計画や学習過程の工夫について発表を頂きました。

【ワーク 日本女子体育大学 高橋 修一 教授】



4つの運動領域（陸上、水泳、器械、体づくり）において、高等学校での学びを見据えた上で4・4・4年のくくりで指導計画を作成しました。「『する』だけではない多様な関わり」を想定し、単元など内容や時間のまとまりに留意しました。高橋先生からは資質・能力の三つの柱を偏りなく育むことが改めて大切だとして指導を頂きました。

【桐蔭横浜大学 佐藤 豊 教授】

「次期学習指導要領に向けた基本的な考え方」「体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ」の資料をベースに、体育科のもつ価値について、改めて考える機会となりました。

「する／できる」という技能的な側面だけにとどまることなく、身体面や社会面、情意面に関わる資質・能力の育成にも力を発揮する強みがあることに、体育科の存在意義があるということをお話ししました。また、全ての児童生徒に運動やスポーツの多様な楽しみ方味わう機会を保障していくことが大切であり、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学びであるということをお話しました。



【文責及び連絡先】

福島ピーチラウンド事務局

福島市立福島第三小学校 教諭 柴田 淳平 Email: shibata.junpei@fcs.ed.jp